

愛知県森林公園で拾得されたタヌキの胃内容物から 見つかったアオモジ

曾根 啓子

なごや生物多様性センター 〒464-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

May chang (*Litsea cubeba*) found in the stomach content of raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides*) from Aichi Prefecture Forest Park, Owariasahi city, central Japan

Keiko SONE

Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

要旨

2022年9月17日に愛知県森林公園の展望台駐車場脇の路上で死亡していたタヌキ *Nyctereutes procyonoides*の胃内容物に、昆虫、節足動物、鳥類ならびにカキノキ *Diospyros kaki*およびアオモジ *Litsea cubeba*の種子が認められた。森林公園周辺では近年野生化したアオモジの生育拡大が確認されており、タヌキがこの果実を餌資源として利用し、種子散布に関与している可能性が示唆された。

はじめに

種子散布には様々な様式が知られているが、その一つに動物に食べられることによって果実や種子が運ばれる被食型の動物散布があり、この場合の散布者は主に鳥類と哺乳類であるとされている(岡本・湯本, 1994)。アオモジ *Litsea cubeba*はクスノキ科の落葉小高木で、8月から10月頃にかけて液果を付け、その種子は主にヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*やメジロ *Zosterops japonicus*などの鳥類によって散布されている(橋本ほか, 2003; 白佐ほか, 2005)。一方、アオモジを哺乳類が散布したという例はあまり知られていない。今回、愛知県森林公園付近で死亡していたタヌキ *Nyctereutes procyonoides*の胃内容物にアオモジの種子が認められたことから、タヌキが散布に関与している可能性が示唆されたため、これについて報告する。

死亡個体の入手経緯

2022年9月17日、愛知県尾張旭市にある愛知県森林公園の大道平池に面する展望台駐車場脇の県道75号上において、1頭のタヌキが死亡しているのが発見され、その場で回収された。この付近では1970年代頃から野生化したアオモジの生育が確認されており(村松, 2015)、今回のタヌキの発見場所は最もアオモジの株数が集中している場所から直線距離にして500 m程の場所であった(図1)。この個体は、なごや生物多様性センター(以下、センター)に持ち込まれ、剖検まで冷凍庫に保管された。

剖検結果

死亡個体について、外部形態計測および剖検を実施した。この個体は雄で、体重が2,280 g、頭胴長が479 mm、尾長が152 mm、後足長が100 mm、耳長が42.6 mmであった。一般的なタヌキの成獣の計測値(Saeki, 2009)

と較べると、いずれの計測値も平均値をやや下回ることから、その年生まれの若い個体であると推察された。後の骨格標本作製時に、頭部および左側後肢の骨に外傷性の損傷が認められたことから、ロードキル個体であると考えられた。胃の内容物を1mmメッシュの金属フルイで水洗選別したところ、昆虫、節足動物、鳥類の断片(羽毛および骨片)ならびに2種類の種子が認められた(図2)。このうち目レベル以下まで同定できたものは、昆虫のバッタ目の一種 *Orthoptera* sp., 節足動物のトビズムカデ *Scolopendra mutilans*, 植物の種子のカキノキ *Diospyros kaki*およびアオモジであった。確認された胃内容物については液浸標本としてセンターに保管した。また、剖検後に毛皮標本(仮剥製標本)および骨格標本作製し、同様に保管を行った。

考察

タヌキは好機主義的雑食性で、果実や無脊椎動物、小型の脊椎動物を中心に採餌するとされている(Saeki,

2009)。今回の発見個体の胃内容物もこの傾向と概ね一致していたが、種子の中にアオモジが含まれていたことが特に注目された。アオモジは愛知県内では逸出種とされ、小型(5~6mm径)で目立つ色(黒紫色)の果実を8~10月頃に一齐に付け(米倉, 2015)、その果実は小型の鳥類によって採餌され、種子が新天地に運ばれることが知られている(橋本ほか, 2003; 白佐ほか, 2005)。また、アオモジの果実にはアリを誘引する付属体があり、アリによる散布もあるという(中西, 1988)。一方、タヌキを含む哺乳類がアオモジの果実を採餌し、その種子を散布したという事例は、著者が知る限り報告されていない。森林公園付近では、近年野生化したアオモジが急激に分布を拡大しており、2013年時点では公園周辺の約3km²内に約730株の生育が確認されている(村松, 2015)。これらの株は道路に沿って、狭い範囲に密生して生育していることから、鳥類ではなく、落果または風によって種子が散布されたのではないかと推察されている(村松, 2015)。今回、アオモジの株から近接し

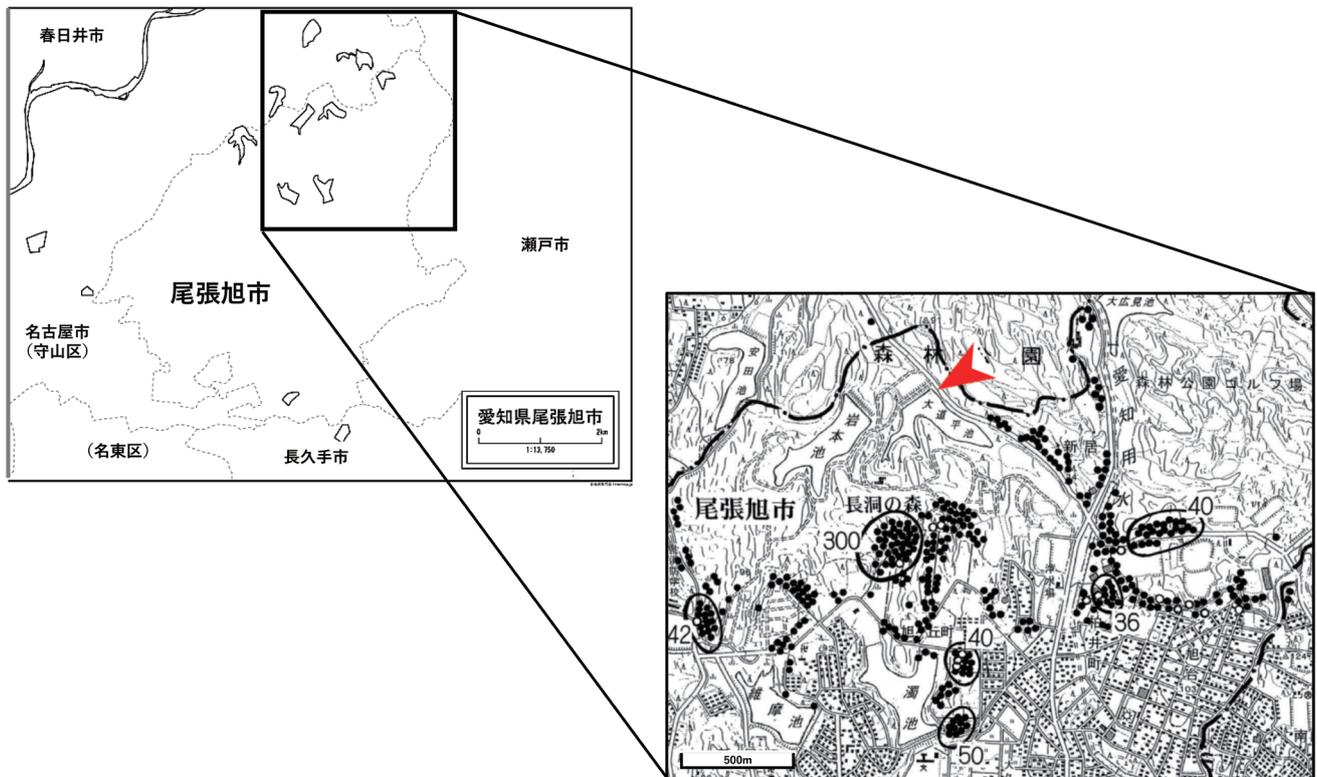


図1. 愛知県森林公園付近におけるアオモジの分布およびタヌキ死亡個体の発見場所。黒丸は果実を付けていないアオモジの株(雄株)、白丸は果実を付けたアオモジの株、黒棒脇の数は株数、矢頭はタヌキの発見場所をそれぞれ示している。アオモジの分布は村松(2015)の図1から抜粋した。

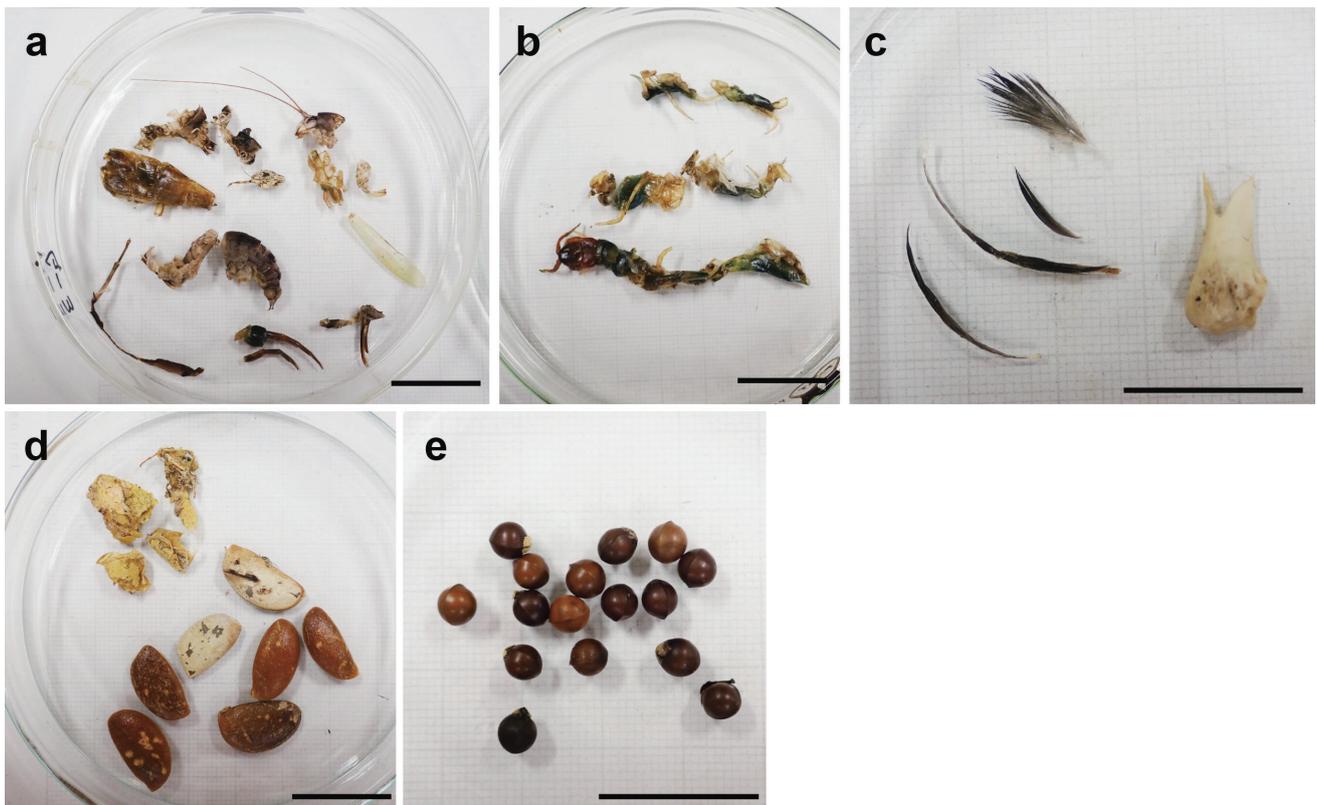


図2. タヌキの胃内容物から検出された昆虫および節足動物 (a, b), 鳥類の羽毛および骨片 (c), カキノキの種子 (d) ならびにアオモジの種子 (e) (スケールバー: 2 cm).

た場所で発見されたタヌキにおいて、果実が成熟する9月中旬にまとまった数(16粒)の種子が検出されたことから、このタヌキがアオモジの果実を採餌していたことが明らかとなった。タヌキはカキノキなどの大型で多肉の果実に加えて、小型で目立つ果実を好んで採餌する傾向があること(高槻, 2018)を考慮すれば、森林公園付近に生息する他のタヌキもアオモジを餌資源として利用していても全く不思議ではない。またタヌキは複数の個体が決まった場所に排泄をする「ため糞」という習性があり、糞場でアオモジの種子が発芽して成長し、そこを起点に分布を拡大してきたと考えれば、アオモジの株が狭い範囲に密生して生育しているという現状とも矛盾がない。したがって、森林公園周辺におけるアオモジの種子散布には、タヌキが関与している可能性が示唆された。

謝辞

永田氏(守山リス研究会)にはタヌキの死亡個体についてご連絡頂き、回収して届けて頂きました。村松正雄

氏(愛知植物の会)および西部めぐみ氏(なごや生物多様性センター)には、種子の同定ならびに文献収集に際し、ご助力頂きました。戸田尚希氏(名城大学農学部昆虫学研究室・名古屋昆虫同好会)には昆虫および節足動物の同定にご協力頂きました。皆様にお礼申し上げます。

引用文献

- 橋本啓史・小林望美・村上健太郎・中村彰宏・森本幸裕. 2003. 近畿地方における逸出種アオモジの種子散布者は誰か? 日本生態学会第50回大会講演要旨. PA3-091.
- 村松正雄. 2015. クスノキ科アオモジ愛知県尾張旭市森林公園付近に野生化. 植物研究雑誌, 90: 141-143.
- 中西弘樹. 1988. 日本の暖温帯に分布するアリ散布植物. 日本生態学会誌, 38: 169-176.
- 岡本泰治・湯本貴和. 1994. 種子散布の生物学. 岡田 博・植田邦彦・角野康郎(編). 植物の自然史-多様性の生物学-, pp.37-55. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

- Saeki, M. 2009. *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834). In: Ohdachi S.D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, and T. Saitoh. (eds.), *The Wild Mammals of Japan*, pp. 216-217. Shoukadou Book Sellers and the Mammalogical Society Japan, Kyoto.
- 白佐達哉・比嘉基紀・神野展光・薛 孝夫. 2005. 福岡県におけるアオモジの分布と繁殖生態. 九州森林研究, 58: 67-70.
- 高槻成紀. 2018. タヌキが利用する果実の特徴－総説. 哺乳類科学, 58: 237-246.
- 米倉浩司. 2015. クスノキ科 LAURACEAE. 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 (編). 改訂新装 日本の野生植物1 ソテツ科～カヤツリグサ科, pp. 78-88. 平凡社, 東京.